

「図書館ひっこしらくらくキット」を用いた資料再配置の実践報告

南雲 修司 (学術情報課利用者サービス係)

寺島 久美子 (学術情報課利用者サービス係)

一橋大学 学術・図書部

1. はじめに

1.1 資料再配置の背景

一橋大学附属図書館は、東京都国立市に位置し、約201万冊の蔵書を有する人文・社会科学系の大学図書館である¹⁾。購入や寄贈により資料を受け入れ、蔵書を蓄積する中で、2010年頃より書架の狭隘化が問題になり始めた。これに対し、2014年に改修した小平研究保存図書館(東京都小平市)に資料の一部を移動させるなどして、国立の本館の狭隘化に対応してきた。国立本館においても、書架の増設や資料の除籍によって配架スペースの確保を図ってきた。しかし受け入れ資料数の多い分野が配架される書架では日々狭隘化が進み、新刊を所定の書架に収めることさえ難しい状況になりつつあった。資料の迅速な配架と円滑な利用のためには、館内全域にわたる資料の再配置が必要となった。

そこで一橋大学附属図書館では2016年に「附属図書館資料等再配置計画検討ワーキング・グループ」(以下、再配置WG)を設置した。再配置WGは、適切な資料配置および効果的なスペース活用の将来的な計画案を作成することを目的とし、主査は利用者サービス係長が務めている。再配置WGでは、狭隘化の解消に向けて、2017年度から2019年度の3年にわたって資料を館内で均しながら移動させる計画を作成した。

資料再配置計画に基づき、年度ごとの具体的な移動計画は利用者サービス係で作成した。移動計画の作成にあたっては、利用者サービス係の担当者が蔵書冊数や書架収容状況等を確認し、どの書架にどの分類をどれくらい移動させるか計算していた。しかし計算の根拠となったファイルが散在していて探しにくかったり、計算方法が複雑だったりして、担当者以外には移動計画の全貌が分かりにくい状況になりがちであった。このため、担当者間での引継ぎや移動計画の再検討を行う際に、多くの時間と労力を要していた。

2018年度に移動計画を担当した筆者は、早速この難しさに直面した。移動に関わる業務改善に向けて、誰が見ても把握しやすく、担当者が代わっても計算の根拠や方法を容易に確

認できるような方法はないかと模索していた。そこで思い当たったのが、図書館の引越しに伴う資料の移動に役立つアプリケーション「図書館ひっこしらくらくキット」だった。

1.2 「図書館ひっこしらくらくキット」について

「図書館ひっこしらくらくキット」は、石田唯氏（千葉大学附属図書館）が Microsoft Excel VBA を用いて 2013 年に作成したアプリケーションである²⁾。なお VBA（Visual Basic for Applications）とは、Microsoft のアプリケーション独自のマクロ言語用に作られたプログラミング言語のことであり、VBA を利用することで、Word、Excel、Access などを用いる定型業務をほぼ自動化することができる³⁾。

この「図書館ひっこしらくらくキット」は、石田氏が 2013 年当時に所属していた東京大学法学部研究室図書室の移転作業を効率的に行うために作成され、耐震改修工事に伴う二度の移転で実際に使用された。図書室移転作業の効率化に大きく貢献したとして、東京大学の 2013 年度業務改革総長賞を受賞した。その後、9 大学の図書館の引っ越し作業に提供され、全国の図書館に有益な成果をもたらしたとして、2015 年度の国立大学図書館協会賞も受賞した⁴⁾。

「図書館ひっこしらくらくキット」は「連番くん」と「見出しちゃん」の二つの機能から構成されている。「連番くん」は、Excel 上で書架の立面図の作成や、移動元・移動先となる書架・書棚の対応付け、移動時に収納する段ボール箱に貼付するシール（連番を付与）の印刷を行うことができる²⁾。「見出しちゃん」は、その書架に配架される資料の分類番号を、見出しラベルの形で出力できる機能である。始点・終点となる分類番号を入力するだけで、一定の書式でラベルが出力できる。

この「図書館ひっこしらくらくキット」総長賞受賞の話題を筆者も耳にし、紹介資料を目にしたことがあったため、一橋大学附属図書館における資料の再配置にも活用できるのではないかと思いついた。特に、Excel への簡単な入力によって、立面図を一定の書式で大量に出力できる点に魅力を感じた。立面図があれば、移動計画の全体像を把握しやすくなり、担当者間での引継ぎや、他係への説明・情報共有が容易になるのではないかと考えた。

そこで石田氏に連絡を取り、「図書館ひっこしらくらくキット」の利用希望を伝えたところ、快く Excel ファイル一式をご提供いただいた。「図書館ひっこしらくらくキット」を活用した資料再配置の計画立案と作業実施について、2018 年度の実践例を以下に報告する。

2. 移動計画の立案

2.1 現状調査

2018年度の再配置計画は、狭隘化の著しい本館3階集密書架の資料の一部(洋書約57,400冊)を、本館地下1階集密書架に移動させることを予定していた(図1)。具体的な移動計画を立案するにあたっては、まず、現状の書架収容状況の調査を行った。

現在の書架収容状況を記録するため、「図書館ひっこしらくらくキット」の「連番くんmake」という機能を使用して、移動元である本館3階の書架の立面図を作成した(図2)。

「連番くん make」は、連数と段数を指定することで、エクセルファイル上に立面図が作成される機能である。立面図を作成する作業は、単純な作業ではあるものの少なからず手間がかかるため、「図書館ひっこしらくらくキット」を用いたことで省力化につながった。なお、「連番くん」にはその名のとおり、棚に連番を振る機能も備えられているが、均しながら移動を行う、すなわち移動元の棚と移動先の棚が必ずしも対応していない今回の作業にはそぐわないと思われたため、同機能は使用しなかった。

立面図を出力後、実際に書架の収容状況を調査した。具体的には、実際に書架に行き、各分類記号の先頭位置と終了位置および空き棚の状況を、立面図に書き込んでいく作業を行った。記録は詳細に記述しすぎても作業が煩雑になるため、0.5段単位で記録した。

こうして作成した現在の書架収容状況を反映した立面図を、エクセルデータに書き写し、各分類の現在の書架収容量を把握した。

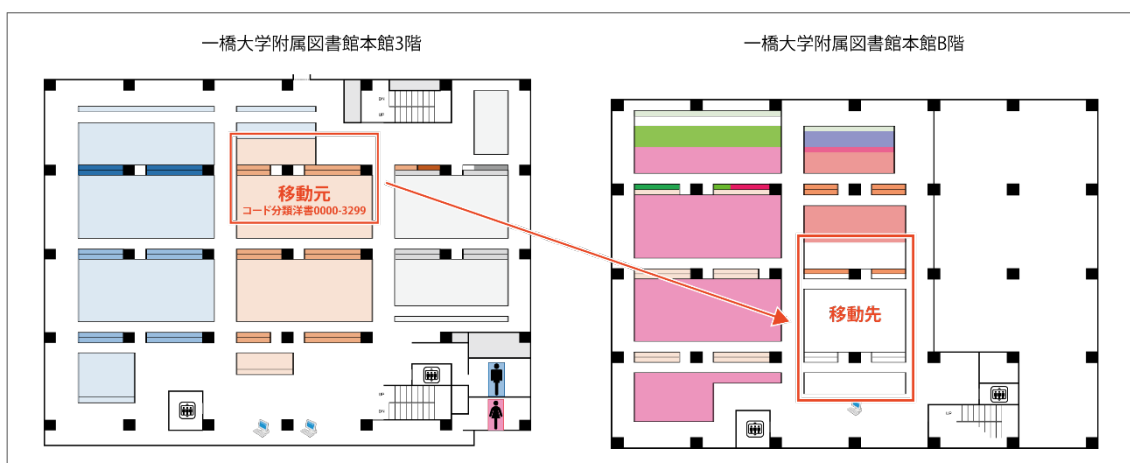


図1 2018年度夏季の移動計画

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1									
2	1								
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11	2								
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20	3								
21									
22									
23									

図2 「連番くん make」で作成した立面図

2.2 増加見込の計算

次に各分類の今後の増加見込み量を計算するため、業務システムにて過去3年に受け入れた分類ごとの受入冊数を出力・集計し、この先5年間の分類ごとの増加見込み量およびその受け入れに必要な段数を計算した。

この増加見込と「2.1 現状調査」で集計した現在の書架収容量を足し合わせ、移動先で分類ごとに確保すべき書架の量を試算した。こうして試算した分類毎の確保棚数の総計は、移動先エリアの棚の総数よりも少なくなったが、余剰分は分類間のバッファに用いて空き棚を確保し、今後の資料の増加に備えることとした。

2.3 移動先の資料配置図の作成

移動計画立案の最終段階として、移動先の資料の配置図を作成した。

まず「2.1 現状調査」の際と同様、「図書館ひっこしらくらくキット」を利用して移動先である地下1階の書架の立面図を作成した。この立面図へ、2.2で試算した分類ごとに確保すべき棚数に基づき、各分類の開始位置と想定される終了位置、確保すべき空き棚を入力していった（図3）。

なお、棚の先頭から位置を決めていくという作業の性質上、途中で誤りに気付いた際の手戻りが大きいため、誤りが生じないように、計算上の収容量の累計と立面図上の累計にズレが生じないことを確認しながら作業を進めた。

こうして作成した移動配置図をもとに、次節の移動作業を実施した。なお、実際の移動作業の計画立案にあたっては、別置されている参考図書の繰り込みや、継続図書分のスペースの確保なども考慮したが、“「図書館ひっこしらくらくキット」を用いた資料再配置の実践

報告”という本稿の目的から外れるため、詳細は割愛する。

図3 移動先の資料配置図（水色部分は空き棚）

3. 移動作業の実施

3.1 事前準備

移動先の資料配置図の完成によって、どの書架にどの分類の資料をどれだけ移動させるかが確定した。あとは実際に資料を移動させる時期や、作業に当たる人員を調整し、具体的な手順を定めていくこととなった。移動の実作業は、利用者が比較的少ない夏季休業中（2018年8～9月）に行うこととした。利用者サービス係と学生アルバイトが移動作業を随時行い、8月の3週間は他係も含む全館体制で移動作業を実施することとした。

移動作業への協力を他係に依頼するにあたっては、全館体制でのシフト割り当て表や、作業の手順書を作成した。割り当て表と手順書を事前に配布することで、誰がいつ作業に入るのか、どのように作業を行うのかを他係の職員にも把握してもらえるように努めた。全館体制での移動作業の初回には実地で説明会を行い、詳しいやり方やコツを確認した。

3.2 実作業

全館体制の作業では、多数の職員や学生アルバイトが代わる代わる移動を行うため、資料をどこに置くか、分類の前後にどのくらいスペースを空けるか等を、誰の目にも分かりやすいようにしておく必要があった。そこで「見出しちゃん」で作成したラベルを、分類番号の変わり目となる書架に貼り付けることで、どの書架にどの分類の資料を配置するのか一目で分かるようにした（写真1）。この見出しにより、作業を行う者が戸惑わずに資料を配架できるようになり、利用者サービス係職員が付きっきりで指示をしなくても、計画通りに作

業が進むようになった。

作業中に不測の事態（資料が多くて所定の書架に収まりきらない、資料が大きすぎて棚の組み替えが必要になる等）が発生した際は、「連番くん」で作成した資料配置図が役立った。資料配置図によって前後の書架の状況を一覧できるため、配置の変更に柔軟に対応することが可能となった。結果、細かい配置の変更はあったものの、概ね当初の計画通りに移動作業を進めることができた。



写真1 見出しラベルを貼付した書架

3.3 事後処理

全館体制の協力のお蔭で、夏季休業中に予定していた移動作業はすべて終わることができた。移動した資料のデータ上の所在は目録情報係と協力して変更し、図書館 OPAC 上に最新の所在情報を反映した。また館内のサイン表示や図書館ウェブサイト上のフロアマップも移動後の状態に更新した。

この移動によって空いた書架のスペースを活用し、本館 3 階の狭隘箇所を均していく作業を春季休業期間に行うこととした（図 4）。次の均し作業に向けた計画を再び「図書館ひっこしらくらくキット」を用いて作成した。2019 年 2 月現在、全館の協力を得て均し作業を行っている。

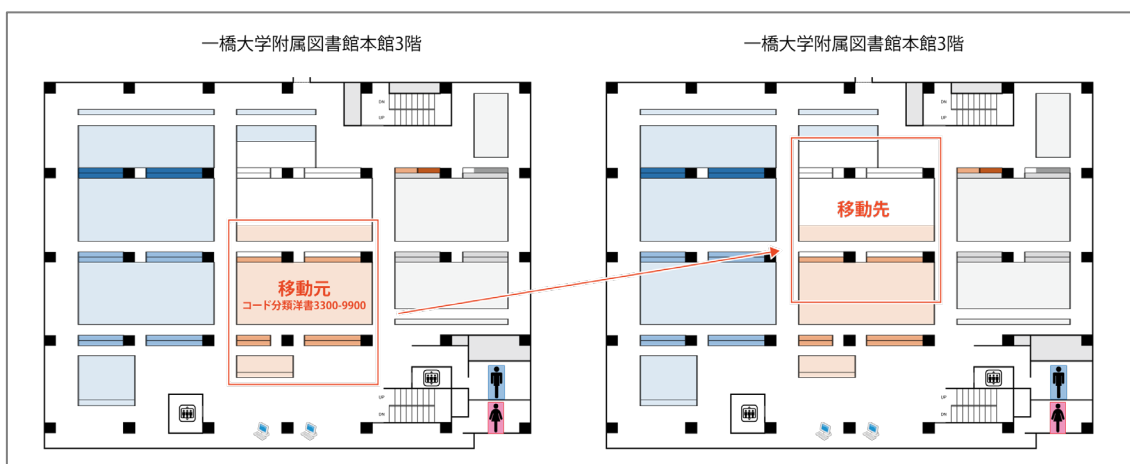


図4 2018年度春季の移動計画

4. おわりに

「1.1 資料再配置の背景」で述べたとおり、本稿で報告した移動作業は、一橋大学附属図書館の資料再配置計画の一環として行われたものであり、本稿を執筆している春季休業期間（2019年2月）には、引き続き、本館3階の移動作業を進めている。2月の移動作業は、本稿で報告した夏の移動作業の経験をもとに作業を行えたため、円滑に計画・実施できた。このように移動作業の実施にあたっては、ノウハウの継承がとても重要であると感じるため、本稿が今後の移動作業の計画・立案の参考になれば望外の喜びである。また、今回「図書館ひっこしらくらくキット」を使用することで、かなりの部分の省力化が行えたが、今後もより改善できる部分がないか、作業手順は随時見直したい。

また、図書館にとって書架の狭隘化は常に頭を悩ませる問題ではあるが、資料の移動によってそれに対処することは、作業コストや資料の移動によって生じる利用者への混乱等を鑑みるに最適な対策であるとは言いがたいと思われるため、今後は、図書を間引いて別置・除籍を行う等の、よりコストが少なく、持続性のある対策も視野に入れる必要があると思われる。

最後に、「図書館ひっこしらくらくキット」の使用を快諾いただき、ツールとマニュアルを提供いただいた石田氏へ感謝を述べて本稿を閉じたいと思う。

1) 一橋大学附属図書館. 一橋大学附属図書館概要. 平成30(2018)年度版, 2018.

<http://www.lib.hit-u.ac.jp/about/gaiyou/pdf/gaiyou2018.pdf>, (参照 2019-02-06).

- 2) 小林幸志. 『変えたい』気持ちを形にする: 総長賞と講習会“MBC”. カレントアウェアネス-E. 2014, no.255, E1538. <http://current.ndl.go.jp/e1538>, (参照 2019-02-06).
- 3) ウェブリオ株式会社.“VBA”. IT用語辞典バイナリ.
<https://www.sophia-it.com/content/VBA>, (参照 2019-02-18).
- 4) “平成 27 年度国立大学図書館協会賞審査結果報告”. 国立大学図書館協会.
https://www.janul.jp/j/operations/award/shinsa_27_1.pdf, (参照 2019-02-18).

[Report]

Practical report of the material relocation using "Toshokan Hikkoshi Rakuraku Kit"

Nagumo, Shuji

Circulation Section, Library Affairs Division, Department of Libraries and Information,
Hitotsubashi University

Terashima, Kumiko

Circulation Section, Library Affairs Division, Department of Libraries and Information,
Hitotsubashi University